

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回4月のてがたんは、4月11日(土)で、「春の花」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、4月4日(土)の9:30からです。よろしく願いいたします。

3月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→漁協前(解散)
- 観察日時と天気：2015年3月14日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：41人(大人34人、こども7人)
- 市民スタッフ：8人 (古川克彌、湯瀬一栄、伊東茂子、岡廣志、木村稔、須貝基康、竹本周平、松村定雄)
- 鳥博職員：2人(小田谷嘉弥・染谷実紀)

観察した生き物の記録

【鳥類】

カモ科：カルガモ、オナガガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ/クイナ科：オオバン/カモメ科：ニシセグロカモメ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声のみ)/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ(声のみ)/ホオジロ科：オオジュリン

【昆虫】

カメムシ目：ルビーロウカイガラムシ/コウチュウ目：ナミテントウ/ハエ目：アブの仲間、ユスリカの仲間/ハチ目：クロヤマアリ、ドロバチの仲間(巣)/チョウ目：イラガ(まゆ)/カマキリ目：オオカマキリ(卵)、カマキリ(卵)

【その他節足動物】

ダンゴムシの仲間、アシナガグモの仲間

【キノコ】

エノキタケ

【花・実】

キク科：セイヨウタンポポ、ハルノノゲシ/シソ科：ヒメオドリコソウ、ホトケノザ/アブラナ科：ナズナ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ/バラ科：ユキヤナギ、ウメ、サクラ/ヤナギ科：ヤナギの仲間/カバノキ科：ヤマハンノキ、ハンノキ/アオキ科：アオキ(実)/スギ科：メタセコイア/ツバキ科：ヤブツバキ/ナデシコ科：オランダミミナグサ/トクサ科：スギナ(ツクシ)/ヒガンバナ科：スイセン/ブナ科：マテバシイ(実)

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「和名・学名・英名で楽しむ生き物」でした。温かい日差しのもと、植物を中心に名前にまつわるお話を聞きながら観察しました。



今月の案内人 古川克彌さんと湯瀬一栄さん



① 樹皮がツルツルなことから名がついたサルスベリ



② ドロバチの仲間の巣



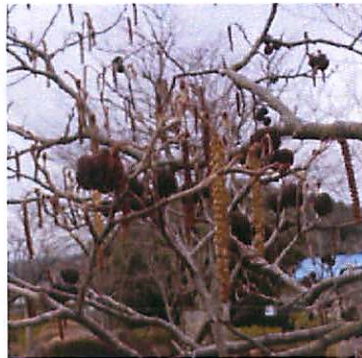
③ 野生のものは茶色いエノキタケ



④ 折れて落ちていたツグミの尾羽



⑥ 大きなメタセコイア。実は学名で呼ばれています。



⑤ ハンノキの花と実。葉よりも先に花が咲く。茶色い松ぼっくりの様なものは昨年の実。田んぼなどの湿った場所を好む。



歩いたルートと観察した生き物



⑦ ホトケノザの花。花の1つ1つが鶏の頭のように見えることから、Henbit(鶏が咬みつく)という英名が付いている。



⑧ 沼沿いの芝生から生えていたツクシ



⑨ タンポポの英名は葉の形から名付けられた



⑩ 花が咲いていたミニ手賀沼のヤナギの仲間



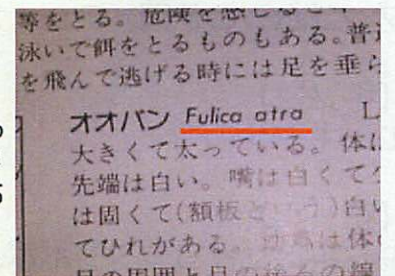
⑪ 水位が下がった漁協前で見つかったドブガイの殻



⑫ 白い額板が膨らんできたオオバン

今月の鳥 鳥の学名あれこれ

図鑑の種名のところを見ると、何やら見慣れない横文字が併記してあることがあります(右図)。これは学名といって、生物に付けられる世界共通の名前を示しています。学名はラテン語で書かれ、ふつう2語で表わされることになっています。オオバンなら *Fulica atra* が属名 *atra* が種小名を表します。この方法で学名をつけることを提案したのはスウェーデンのリンネという博物学者で、1735年に著した「自然の体系」で様々な生物に2名法で命名しています。たいてい、学名はその種の特徴を表して付けられます。たとえば、オオバンの種小名 *atra* は「黒い、すすけた」という意味のラテン語で、オオバンの体色が黒っぽいことに由来しています。学名に注目してみると、日ごろ見慣れた自然の観察も、より面白くなるかもしれません。



オオバンの学名は *Fulica atra*